



## 異業種に学ぶ医療福祉経営

# セルフヘルプの お手伝いをする「健康応援団」

～人生100年時代の健康寿命延伸を支える

「白寿の健康哲学」～

## 原 浩之 氏

株式会社白寿生科学研究所 代表取締役社長  
ハクジュホール 支配人

### 原 浩之 氏 プロフィール

1971年東京都生まれ。慶應義塾大学を卒業後、あさひ銀行に入社。1998年白寿生科学研究所入社。2000年同取締役、2003年営業本部長、2015年副社長から2020年代表取締役社長に就任。本社ビル内の「Hakuju Hall」支配人も務め、音楽支援活動にも注力する。日本ホームヘルス機器協会理事、琉球リハビリテーション学院理事、国立大学法人東京芸術大学演奏芸術センター評議員、早稲田大学総合科学研究機構グローバル科学知融合研究所招聘研究員。

「急激に進む高齢化のなか人生100年時代と言われ、健康寿命の延伸がこれからの長寿社会における大きな課題となっている。そこで、電位治療器「ヘルストロン」や健康食品の販売を通じ、地域の健康と人々のセルフヘルプを支える医療機器メーカー・白寿生科学研究所代表取締役社長の原浩之氏に、事業の根幹となる健康哲学などについて話を聞いた。

### 「白寿生科学研究所の、主な事業内容や企業概要についてお聞かせください。」

弊社は主力製品である電位治療器「ヘルストロン」の製造販売を主な事業としている医療機器メーカーです。ヘルストロンは、厚生労働省によって医療機器（クラスⅡ）に認定されている電位治療器で、1928（昭和3）年に私の祖父であり当社の創業者である医学博士の原敏之が発明したものです。当時、頭痛や不眠、肩こりなどに悩まされていた母親のために、祖父はヘルストロンを作り上げました。その後、1963（昭和36）年に日本で初めて電位治療器（交流式）として厚生省（当時）の製造承認を取得。翌年、株式会社白寿生科学研究所を設立しました。

現在ヘルストロンは、全国の病院や

治療院およそ2000施設でご利用をいただいております。また弊社では、家庭用ヘルストロンの体験ができる店舗である「ハクジュプラザ」を、全国に約500カ所展開しています。店舗ではヘルストロンの体験だけで

なく、白寿生科学研究所の健康哲学に基づいた健康食品で地域の皆さまの健康生活をサポートしようと、不溶性食物繊維を含むクマザサの商品や水溶性食物繊維を含む海藻の商品など多くの健康食品を取り揃え、ご提供しています。社員数は253名、グループ従業員は合計で約1000名、そのうちおよそ600名が営業に携わっています。

また2003（平成15）年には、本社に世界初のリクライニングシート採用クラシック専用ホールである「ハクジュホール」を開設し、年1回行われるクラシックギターの祭典「ENCORE GUITAR フェスタ」や、リスト編曲のベートーヴェン交響曲のピアノリサイタルなどを開催し、ご好評をいただいています。

私自身はちょうど25年前に弊社に入社し、経理や営業、経営企画等の業務を務め、3年前に代表取締役社長に就任しました。またハクジュホールでは、開設当初から支配人を務めております。

## 「白寿生科学研究所の健康哲学とは、どのような考え方なのでしょう？」

創業者である原敏之は、「人は自然に逆らっては生きられない」として、体を自然な状態に保つことで人間の健康を維持しようと考えました。そのため私たちは、ヘルストロンの高電圧による治療とともに、「ゆとりある精神」、「適度な運動」、「バランスのとれた食事」の三位一体を「白寿の健康哲学」としています。

この三位一体の輪の中に身を置くためには、自己管理⇨セルフヘルプが必要です。そのお手伝いをする一番の健康応援団になるのが私たちの役割です。電位治療器のほか、健康食品事業やハクジュホールルの運営など様々な弊社の事業や活動は、すべてこの三位一体の「白寿の健康哲学」を実現するための協力態勢を育み、皆さまのセルフヘルプを促すためのものなのです。

私たちがこの健康哲学にこだわるのは、「世界中の方々の体と心を健康にすることが、私たちの使命なのだ」と考えているからです。「ゆとりある精神」、「適度な運動」、「バランスのとれた食事」の三位一体という考え方は、健康科学や予防医療が発展した21世紀の現在では、しごく当たり前のことのように聞こえるかもしれ

ません。しかし原敏之は、これを今から半世紀以上も前の昭和30年代に提唱し、ヘルストロンと共にその哲学の普及啓発に尽力しました。これはある意味で予言的、あるいは奇跡的なものだったようにも思えます。

今から6年後にヘルストロンの誕生から100周年を迎えるのですが、少子高齢化や医療財源の逼迫といった課題が山積するなか、医療や介護の世界では健康寿命の延伸が言われるようになり、そのためのセルフヘルプが大きなテーマとなっています。94年前にこうした状況を予見し、三位一体の「白寿の健康哲学」を提唱した祖父の思いをしっかりと受け止めて、私たちはさらに発展させていきたいと考えています。

## 「代表取締役社長就任から3年が過ぎたということですが、その間、どのようなお考えで経営やマネジメントを行ってこられたのでしょうか。」

まず弊社の伝統的な社風として、「白寿の健康哲学」やヘルストロンという製品そのものについて、多くの社員がそれらの内容や効果に大きな自信があることから、かえってお客様のニーズに十分に応えられていないというような傾向がみられました。加えてお客様の考えや生活様式な

ども多様化していますので、ここで改めて「お客様の立場になって傾聴をする」といった、基本的なコミュニケーションの方法を見直す必要があると考えています。

また、営業職にノルマを与えるとお客様が追う事となり、かえってお客様が離れてしまいかねませんので、売上台数などのノルマは設定していません。それよりも店舗である「ハクジュプラザ」に新たなお客様により多く来店していただくことが大切です。その上でお客様とコミュニケーションをとりながら、健康に関する良い話ができることが重要だと考えています。

現在、約500カ所の「ハクジュプラザ」に1店舗当たり1日約140名、全国では1日約7万人、年間では延べ1500万人のお客様が来店されています。そこで私たちはヘルストロンの営業や健康食品の販売をしているわけですが、これを通じて地域の健康リテラシーを上げていくこと、言い換えれば「健康と言えば白寿」というふうな地域で認知されていくことが今の大きな目標となっています。

## 「白寿生科学研究所の、今後のビジョンについてお聞かせください。」

現在、全国には47都道府県に

1718の市区町村があります。一方、地域で暮らす皆さんの健康に関する発信基地をめざす私たちの「ハクジュプラザ」があるのは、いまだ44都道府県、約500カ所にとどまっています。まずはこれについて、1000カ所の展開を目指したいと考えています。それにより来店者数をさらに増やすことで、「健康に関することといえば白寿」というブランディングを進めていきます。

その上で人生100年時代といわれるなか、「ゆとりある精神」、「適度な運動」、「バランスのとれた食事」という三位一体の「白寿の健康哲学」により、地域の皆さまの健康寿命の延伸にさらに貢献していきたいと思っています。（取材・文／瀬沼健司）



60年変わらない、地域に根付く交流コミュニティ「ハクジュプラザ」の様子